



# “デル” 以外の選択肢はありえない— 3DCG を駆使した映像表現の革新に 「Dell Precision ワークステーション」を フル活用

革新的な映像表現を追求し、数々の話題作を世に送り出しているアニメーションスタジオ神風動画。同社では 2003 年の設立以来、映像制作にデル製ワークステーションを使い続けている。2019 年におけるワークステーション更改に際しても、「タワー型ワークステーション Dell Precision 3000/5000 シリーズ」を選択し、約 50 台を導入した。デル製ワークステーションの性能とサポート品質に対する信頼は揺るぎないものであるという。



映像情報制作・配給

日本

## ビジネス課題

神風動画では、2003 年からデル製ワークステーションを導入し、およそ 3 年に一度のペースで新機種にリプレース（更改）してきた。2019 年の更改では Windows 7 から Windows 10 への移行もあり、約 50 台のワークステーションを新機種へと一挙に切り替える必要があった。

## ソリューション

- ハードウェア
  - Dell Precision 3630 Tower ワークステーション
  - Dell Precision 5820 Tower ワークステーション

## 導入効果

- 映像制作に使用する最新ソフトウェアのスムーズな動作を実現
- ワークステーションの性能アップでマルチタスク作業を高効率に実行
- 耐久性に優れたワークステーションを採用、故障による業務中断のリスクを低減
- 製品固有 ID サービスタグを通じた迅速なセルフサポートを実現

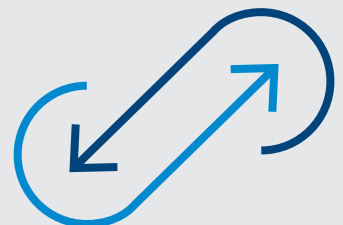
# 03 年

2003 年より一貫して  
デル製ワークステーションを  
活用



# 0 回

過去 17 年間、  
デルのサポートに  
不満を感じた回数はゼロ





神風動画の作品例 / 『トゲめくスピカ』の映像 ©NHK / 神風動画

神風動画は、3DCG アニメーションを中心に手がけるアニメーションスタジオだ。同社では 2003 年の設立当初から、制作用のワークステーションとして「Dell Precision シリーズ」を使い続けている。ワークステーションはおよそ 3 年ごとに最新機種へとリプレースしており、Windows 7 のサポート終了に伴って実施した 2019 年の更改では「Dell Precision 3630 Tower」「Dell Precision 5820 Tower」を導入した。一時期、デル製以外のワークステーションも導入していたが、耐久性やサポート品質の面でデル製品には及ばず、近年ではワークステーション全台をデル製品で統一する方針を貫いている。

## 常に革新的な映像表現に挑む

神風動画は 1998 年、現代表取締役の水崎淳平氏が個人事業として立ち上げ、2003 年に法人化された。創業のころから CG を活用したアニメーションの企画・制作に取り組み、3DCG の技術を駆使したセルルック（セル画ふう）アニメーション作りを柱としながら、TV アニメのオープニング・エンディング映像をはじめ、ゲームの挿入映像、音楽作品のプロモーションビデオ、TV コマーシャルの CG 映像、さらには、劇場用オリジナル長編アニメーションなどを幅広く手がけている。

インパクトのある同社の作品は業界から高く評価されており、深夜アニメ『ポプテピピック』や長編アニメーション映画『ニンジャバットマン』をはじめ、NHK みんなのうたで放映されたポルカドットスティンブレイ『トゲめくスピカ』の映像、グラミー賞受賞アーティストであるスタージル・シンブソン氏のアルバム『SOUND & FURY』のビジュアルアルバムなど、数々の話題作を世に送り出している。一方で、時間外労働が多いとされるアニメーション・映像制作の業界にあって、“残業・徹夜はしない”というホワイトな働き方を推奨している点でも、同社は広く知られている。

そうした神風動画の特色について、取締役の水野貴信氏は次のように話す。

「私たちはアニメーションスタジオですが、自分たちが制作しているのはアニメーション作品ではなく、あくまでも映像作品であるという意識を強く持っています。その中で大切にしているのは、映像作品の作り手として、革新的な表現方法の確立に挑み続けることです。3DCG を使ってセル画風のアニメーションを制作するにしても、必ず新しい手法やアイデアを取り入れるようにしています」

こうした方針から、神風動画の制作現場では、一人ひとりが自分のトライしたい手法や技法に挑むことができ、それぞれの創造力を存分に活かすこと

ができるという。

「いつも同じことの繰り返しでは、どのような仕事でも情熱が薄れていくはず。それでは人に感動や衝撃を与えられるような、映像作品は作れないのです」（水野氏）。

## 耐久性とサポート品質で デルを使い続ける

制作現場の自由な発想を活かした革新的な映像作り——。その作業を IT の側面から支えてきたのが、デルのワークステーションだ。水野氏によると、神風動画では 2003 年の設立当初からデルのワークステーションを使い続けているという。

「私が神風動画に参加したのは 2003 年ですが、当時から制作の現場ではデルのワークステーション（Dell Precision 360）を導入し、使用していました。私は神風動画に入社するまで、Windows マシンを使った経験はなかったのですが、デルのワークステーションは性能もよく動作も安定していたので、すぐに気に入り、個人用として自宅にも導入しました」

その後、事業・組織の拡大に伴い、神風動画の制作現場にはワークステーションがみるみる増えていった。その中で、同社はおよそ 3 年に一度のサイクルでワークステーションの更改も繰り返してきたと、システム管理を担当する長畑大海氏は話す。

「3 年ごとに買い替えているのは、3DCG で使用するレンダリングソフトがその間に進歩し、古いハードウェアのスペックでは十分なパフォーマンスが出なくなるからです」

こうして幾度もワークステーションの更改を重ねてきたものの、導入するワークステーションについては、ほぼデル製品で一本化してきたという。その理由について、長畑氏は次のように話す。

「私たちがワークステーションを選定する際に最も重視しているのは耐久性です。経年劣化で故障



有限会社神風動画  
取締役 / 演出  
水野 貴信 氏







有限会社神風動画  
制作/システム管理  
長畑 大海 氏

を頻発させるようなワークステーションでは制作現場の業務に支障をきたします。つまり、故障が少なく安定稼働を続けるワークステーションが必要不可欠で、デル製品は常にその要件を満たしてきたということです」

また、デルによるサポート品質の高さも、デル製品を選び続けてきた大きな理由であると、長畑氏は続ける。

「デル製品は故障が少ないのでサポートを受ける機会はありませんが、サービス内容は秀逸です。

例えば、万が一のトラブルが発生しても、その原因の所在がハードウェアなのか、それともソフトウェアなのかを、エラーコードとサービスタグを検索するだけで簡単に突き止められます。これにより、社内で迅速に復旧に取り組めますし、修理が必要な場合でも、デルのサポートに連絡をすると適切な対応をしてくれます」

神風動画では以前、デル製以外のワークステーションを導入したこともあったという。ただし、他社製品の耐久性やサポート品質がデル製品には及ばず、近年ではワークステーションの選択肢は“Dell Precision”で一本化している。

「他社製品の場合、耐久性でデル製品に劣ると感じる点が多く、トラブル発生時に私たちの質問に対して、メーカーから明確な回答が得られないことも多くありました。一方のデル製品に関しては、そのように感じることは一度もありません。当社がデル製品を長く使い続けてきた理由は、そこにあります」(長畑氏)。

## スペックの柔軟性も デル製品の魅力

神風動画では2019年、社内のワークステーション全台をデルの最新モデルにリプレースする作業に取り組んだ。目的の1つは、ワークステ

ーションのOSを、2020年1月にサポート終了を迎えるWindows 7からWindows 10へと切り替えることだった。そのための機種選びに際して、神風動画が設定した要件は、映像制作で使うソフトウェアが快適に使い続けられることだ。

「当社の場合、映像制作用のソフトウェアとして、主に3DCGソフトの『NewTek LightWave 3D』とコンポジットソフト『Adobe After Effects』、フォトタッチソフト『Adobe Photoshop』などを利用しています。新機種は、それらが軽快に動作することを基準に選ぶことにしました」(長畑氏)。

検討の結果、同社が導入を決めたのは、デルのタワー型ワークステーション「Dell Precision 3630 Tower」と「Dell Precision 5820 Tower」だ。

「映像制作のスタッフが日常的に使用するマシンには Precision 3630 Tower を、3DCG レンダリングなど高負荷の処理を実行するマシンには Precision 5820 Tower を採用することにしました。そのうえで、それぞれのスペックをデルと相談しながら細かく決定していきました。こちらの要件に応じてスペックの構成が柔軟に決められるのはデル製品の魅力の1つです。また、スペックに関する適切な提案・アドバイスもデルからもらえるので本当に助かります」(長畑氏)。

ちなみに、スペックの構成を決める際には、長畑氏は今回、デルが法人顧客向けに用意している Web オンラインチャットも活用したという。

「Web オンラインチャットは、サポートに電話をするよりも負担が少ないと感じています。問い合わせをするとすぐに回答が返ってくるので、スペックの構成を決定する際にも重宝しました」(長畑氏)。

## ワークステーションの 高性能化によって 業務効率が格段にアップ

神風動画が今回導入したのは、Precision 3630 Tower が40台、Precision 5820 Tower が4台だ。Precision 3630 Tower は、インテル Xeon プロセッサ E-2286G、32GB メモリ、NVIDIA Quadro P2200 グラフィックスを採用し、ストレージは起動ドライブに256GB SSD、データドライブに1TB SATA ハードディスクを搭載するなど、映像制作で使用するソフトウェアが軽快に動作するのに十分なスペックに統一された。

神風動画の作品例 / 『SOUND & FURY』のミュージックビデオ ©SOUND & FURY: ©2019 High Top Mountain Films, LLC / Elektra Records.



「当社の映像制作スタッフは、一人で何役もこなすことが多いため、一度に複数のソフトウェアを立ち上げて作業するのが通常です。そのため、どのワークステーションを使っても作業効率に差が出ないように、必要十分なスペックを搭載したマシンをそろえることにしました」（長畑氏）。

一方、主にレンダリング処理などの用途に利用する Precision 5820 Tower は、インテル Xeon プロセッサー W-2125/W-2123、32GB メモリ、NVIDIA Quadro P4000/P5000 グラフィックスを採用し、ストレージは 1TB SATA ハードディスク / 512GB SSD + 4TB SATA ハードディスクを搭載するなど、強力なスペックの構成になっている。

「3DCG 映像を作成する際に行うレンダリング処理の工程では、より高性能なワークステーションが必要です。処理の負荷は案件によって変わるので、どんな処理にも対応できるワークステーションを用意しました」（長畑氏）。

## 今後も時代にマッチした 高性能ワークステーションを

長畑氏によれば、今回のリプレースによって Windows 10 への移行が予定どおりに進められたのはもとより、ワークステーションの高性能化によって業務効率が格段にスムーズになったという。また、レンダリング処理にかかる時間も確実に短縮されたそうだ。

神風動画ではここ数年来、短編・長編、そしてジャンルを問わず、映像制作の案件がハイペースで増え続けているという。また今後は、オリジナルの長編作品の制作にさらなる力を注いでいくと水野氏は言う。そうした作品作りを滞りなく進めるためにも、高性能ワークステーションによるバックアップが必要不可欠となる。

「ワークステーションの性能によって映像制作の効率性は大きく左右されますし、長編作品に力を注ぐことで、制作の現場がワークステーションになお一層の性能向上を求めるようになるかもしれません。今後も、時代や現場のニーズにマッチしたスペックのワークステーションを導入し続けるつもりです」（水野氏）。

3DCG を駆使した斬新な映像表現で時代の先頭を走り続ける神風動画。デルのワークステーションはこれからも、同社の取り組みを支えていく。

「デルのワークステーションを制作で使い続けて 17 年になりますが、安定感と安心感が抜群です。他社製のワークステーションを使う理由は、今のところどこにもありません」

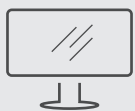
有限会社神風動画  
取締役/演出  
水野 貴信 氏



「ここ数年来、制作の人数がかなりの勢いで増えているので、ワークステーションの調達や運用管理の難度は上がっていますが、デル製品の故障率の低さとサポート品質の高さに助けられています」

有限会社神風動画  
制作/システム管理  
長畑 大海 氏

ユーザ導入事例ウェブサイトにて、他にも多くの事例をご覧ください。 [www.dell.co.jp/casestudy](http://www.dell.co.jp/casestudy)



Dell Precision  
ワークステーションの  
詳細はこちらから



専門スタッフへの  
お問い合わせ



お客様導入事例の一覧は  
こちらから



この記事共有する

